

第4章

教育委員会意見聴取会

	事務事業名	ページ
1	食育推進事業 (学校給食におけるおやま「わ食の日」の実施)	P100
2	企画展開催事業	P103
3	市立体育館整備事業	P106
4	図書館資料選定・受入・管理業務	P109

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	食育推進事業 (学校給食におけるおやま「わ食の日」の実施)		
	担当課	学校教育課	担当係	食育推進係
	事務事業評価シート No.	6	報告書掲載ページ	48・49

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和3年度の活動内容」の適否	適切	2人	<p>○「食」は生きる上での基本であり重視されなければならない。特に子どもたちにとって食に関する教育は重要であり、「わ食の日」を設定し計画的に食育を推進していることは評価できる。保護者との連携にも取り組んでいることも適切である。</p> <p>○食育推進のため毎月8日を「おやまわ食の日」として推進した取り組みは適切と判断した。児童・生徒啓発、家庭への通知も意義を感じた。</p>
			概ね適切	1人	
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	1人	○食文化や食習慣など「食」を総合的に捉えて、家庭との連携を図りながら子どもたちの食の充実を目指していることは大いに評価できる。
			概ね適切	1人	○意識を向けさせることにより、成果に結びついたと思う。
			やや不適切	1人	○ここで述べられている内容を示すデータが提示されていないため、客観的に評価することが困難である。

		<p><22> 「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否</p>	<p>概ね適切</p>	<p>2人</p>	<p>○「わ食の日」の認知度がやや低いことについては今後の啓発活動に期待したい。家庭での食事の形態がさまざまであろうことは想像できるが、それぞれの事情の中で家族としての一体感が育まれていくことを期待したい。その重要な手立てとしても食事があるのではないか。</p> <p>○朝食や夕食を家族と一緒に食べるという指標は実態把握としては良いと思うが、生活の仕方が多様になってきているので、実現できない家庭もあるように思う。</p>
			<p>やや不適切</p>	<p>1人</p>	<p>○「わ食の日」は手段であり、「食育の普及・啓発」が最終的な目的であると思われるため、「食育の普及・啓発」に対応した指標を取り上げることで事業の成果をより適切に評価可能となる。</p>
<p>3. Check -評価-</p>		<p><33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否</p>	<p>適切</p>	<p>2人</p>	<p>○活動内容についてそれぞれ妥当な指摘がされている。</p> <p>○コロナ禍がさまざまなところに影響している中で、「わ食の日」を推進していくことには多くの困難が伴ったことであろう。家庭への情報発信についてもさらに工夫していこうとする意欲に期待したい。</p>
			<p>概ね適切</p>	<p>1人</p>	<p>○「わ」を「和・輪・環」と三つの観点から設定して多くの意味と目的を持たせた取り組みは効果があると判断した。</p>
<p>4. Action -改善-</p>		<p><34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否</p>	<p>適切</p>	<p>2人</p>	<p>○現在実施されている事業をそのまま継続するという点において、妥当な指摘がされている。</p> <p>○食育に限らず教育はすぐに結果が出るものではないので継続的に推進していかなければならない。子どもの教育は家庭との共同作業であり、情報を共有するなどいろいろな働きかけを試みて一歩一歩進んでいってほしい。</p>

		概ね適切	1人	○「わ食の日」とは別に、さらに食育を進める日を決め、取り組むという点で、適切と判断した。
総合意見等		<p>○「食」は生物の活動の原点であるため、ありとあらゆる領域と関連する。そのため、総合的な学びとして組み込むことで、食育の重要性を効果的に伝えることができると考えられる。市が実施する事業という観点から、田んぼの学校など、他の施策と連携を図ることでより効果的な事業となることが想定される。</p> <p>○日本のメディアには食に関する情報があふれているが、その多くは「めずらしいもの」、「豪華なもの」など普段の生活からは縁遠いものが多い。一方には「フードバンク」や「子ども食堂」などの食を支える活動も各地にみられる。また、フードロスも大きな問題だ。なかなか見えにくいのだが、社会の格差は食事の場に端的に表れているのではないか。かつてバングラデシュ出身のALTが「祖国に帰ったら日本の学校給食を広めていきたい」と話してくれたことがあった。日本の学校給食は世界に誇れるものではないか。料理研究家の土井善晴氏は「一汁一菜でよい」と提案している。家庭ではもちろんであるが学校給食でも食事の基本を丁寧に教え、「よく食べることはよく生きることである」ということを子どもたちに学び取らせていただきたい。社会の将来は偏に子どもたちにかかっているのだから。</p> <p>○「わ食の日」の制定に当たっては、単に狭い範囲の観点からのみではなく、地産地消の農業政策や今、子ども達に必要なこととして制定されたと思う。「食」は成長期の今の体を作ることのみならず、生涯にわたることなので、諸々の観点に思いを巡らせながら提供し、児童・生徒には漫然と食するのではなく、このような取り組みからさらに気づきがあれば望ましいことと思う。家庭での食が完全とはいかない子ども達もいると思うので、食育推進事業には期待しております。</p>		

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	企画展開催事業		
	担当課	博物館	担当係	業務係
	事務事業評価シート No.	27	報告書 掲載ページ	88・89

「事務事業評価シート」中の項目に関する評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和3年度の活動内容」の適否	適切	3人	<p>○計画に対応した活動内容となっており適切である。</p> <p>○2度の企画展『日光山とおやま』、『歌人 田波御白』は本事業のテーマ「縁」に沿った企画であろう。夏季の地域移動展は毎年子どもたちの興味、関心を引く企画であり適切である。</p> <p>○年3回の事業の企画展2回と地域移動展1回は適切と判断した。</p>
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	3人	<p>○計画に近い実績を残しており、適切である。</p> <p>○市民の学術的要求を把握するのは難しいところもあるが、的確に把握できれば来館者の増加につながるであろう。前年度に比べ来館者が増えた大きな要因と考えられる。</p> <p>○年3回の企画は長期間の見通しの上に立ち、本市ゆかりのテーマを設定しているものと判断した。</p>
		<22>「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否	適切	2人	<p>○それぞれ客観的な指標であり、計画に対応した妥当な指標である。</p> <p>○来館者数と開館日数を指標にしたのは、明快な数が出るので適切であると判断した。</p>

			概ね適切	1人	<p>○来館者数の計画をほぼ達成できたことは企画展が妥当であったということであり評価できる。3つの企画展それぞれについては細部の検討をお願いしたい。</p>
3. Check -評価-	<33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否		適切	3人	<p>○本事業について、適切な評価が行われている。</p> <p>○市内の中心的な文化施設である博物館が40年の長きにわたって市民のニーズに応え運営されてきたことは大いに評価できる。今後さらに充実した館運営が期待されているはずであり、そのためにも人的、物的にさらに充実させていかなければならないであろう。</p> <p>○概ね自己評価のとおりであると考えます。</p>
4. Action -改善-	<34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否		概ね適切	3人	<p>○多様な学芸員などの配置は重要であるが、小山市だけで実施することは財政的に困難と思われる。そのため、近隣の市町や県との連携をより深めることが望まれる。</p> <p>○年3回の企画展は評議会や市民へのアンケートからも支持されており妥当と思われるが、それを企画運営していくスタッフの実情はどのようなであろうか。高度な専門性が要求される職務であり、研修は言うまでもなく人材の計画的な採用、育成が必要であろう。</p> <p>○企画展の開催回数は適当だと思います。企画展実現化への担当相員配置については、人的資源発掘に努める必要がありますね。ただ、専門の人が見つからない場合でも、ある分野は全くなしということではなく、何らかの手立てが講じられればよいかと思います。</p>

総合意見等

○博物館を訪れる層に偏りが感じられるため、主に若年層を対象に広報を行うことが必要と感じられた。SNSの活用が十分ではないため、デジタルに精通した若手の職員などの応援を受けつつ、積極的な広報を期待する。

○美術館等も含めて博物館はそこにある展示物が一番の魅力である。職員の方々は市民に何を見せるか、どう見せるかということにさまざまな思いを巡らしているのではないかと。市立博物館には多くの収蔵品があるようなので、時にはそれらの文化財を展示する収蔵展を開催してもよいのではないかと。それらを可能にするためにも、さまざまな技術が進歩している時代ではあるが、文化的な施設では人の力が不可欠であり、特に専門的職員なくしては成り立たないことは明らかである。市立博物館がさらに充実し、市民が行ってみたいくなる文化の薫りのする施設であってほしい。

○本市民の文化教養施設として、博物館への期待度は高い。年3回の企画展は、開催する側も観覧する側も定番として定着して適当だと考える。内容についても、年3回なので例えば10年とかの長期スパンに立ち大きなサイクルの1年3回とみて考えられていると思う。歴史、考古、民俗、自然科学等、色々な分野の企画を期待しております。また、県内でも、那須野が原の開拓、遺跡、埴輪、仏像、孔子ゆかり等、その地域ならではの特色が出せている所もあるので、本市ならではの特色が出せたらよいと思う。

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	市立体育館整備事業		
	担当課	生涯スポーツ課	担当係	施設整備係
	事務事業評価シート No.	29	報告書掲載ページ	94・95

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手段	<19>「令和3年度の活動内容」の適否	適切	2人	○開館初年度の活動として妥当である。 ○令和3年3月には建設工事が完了し、オープンまで滞りなく進められたと判断した。
			概ね適切	1人	○令和3年度は館運営の初年度であり、7月以降本格的な供用が始まってからも様々な課題が出てきたことと思われる。多くの知恵を出し合いながら市民のために適正な事業の実施をお願いしたい。
	成果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	1人	○利用者の意見を聞きながら、指定管理団体と対応をしており妥当と考える。
			概ね適切	2人	○体育館に寄せる市民の様々な思いを的確に把握し、それを業務に反映させることは必要不可欠である。アンケートの方法を改善しながら市民の意向がより良く反映されることを期待する。 ○発足したばかりなので、市民アンケートの他に、セルフチェックもあった方がよいと思う。
			適切	1人	○まだ初年度であり今後の見通しは難しいと思われるが、これからも高い満足度が維持されることを期待したい。

			概ね適切	2人	<p>○開館後の指標としては、施設利用率を取り上げた方が客観的な指標としてより妥当と思われる。</p> <p>○発足したばかりなので、市民アンケートの他に、セルフチェックもあった方がよいと思う。</p>
3. Check -評価-	<33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否	適切		2人	<p>○現状について妥当な指摘がなされている。</p> <p>○市民が長らく待ち望んでいた体育館であり、その運用について市民は高い関心を持っているはずである。まだスタートしたばかりであり試行錯誤のところもあると思われるが、改善しながらより良い運営をお願いしたい。</p>
		概ね適切		1人	<p>○市民がよりよく利用し易い環境となるよう運営していく方針を、概ね適切と判断した。</p>
4. Action -改善-	<34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否	適切		1人	<p>○コロナ禍は何とも悩ましいことではあるが、感染症対策に万全を期し利用促進を図っていることは大変ありがたい。利用者が増え、さまざまな市民の意向が寄せられれば、館の運営も自ずと向上していくのではないかと。</p>
		概ね適切		2人	<p>○感染症対策は重要であるが、パンデミック終息後を見据えた改善策も平行して検討することが求められる。</p> <p>○広報活動やスポーツ教室、イベントなどを積極的に行い、利用促進を図られたい。</p>

総合意見等

○施設の利用率がまだ十分に高いとは言えない水準と思われる。そこで市立体育館でイベントを開催するなど、市民へのさらなる周知を行うことで利用率を向上させ、市民の運動習慣を定着させることにつなげることが求められる。

○大きな目標として「多彩で個性ある市民文化と生涯スポーツ社会」が掲げられているが、新しい体育館はその実現に大きな役割を果たさなければならないだろう。高齢者にとってはもちろんであるが、生涯スポーツの基礎は子ども時代に培われるであろうから、子どもたちも利用しやすい体育館であってほしい。利用料などでの配慮が欲しい。また、市民は体育館の運営に関心を持ち積極的に利用すべきであろう。

○最新設備を備えた立派な施設がとちぎ国体開催の年にオープンしました。国体終了後は一般市民が有効に活用できることを望みます。まだ生活に運動習慣を取り入れていない健康志向の一般の方の人口を増やすことも運営目標の一つにしていきたい。事業計画にあるように、スポーツ教室やイベントの開催等の運動体験は良い事業と思う。そこから個人利用が広がっていくと思う。民間委託については、運営維持管理協議会のチェック機能が十全に果たされることを期待します。

「意見聴取会」における評価・意見

基本情報	事務事業名	図書館資料選定・受入・管理業務		
	担当課	中央図書館	担当係	総務係
	事務事業評価シート No.	32	報告書掲載ページ	74・75

「事務事業評価シート」中の項目に関わる評価の視点			委員の評価【四択】		左記の評価理由
			評価区分	評価委員数	
2. Do -実施-	手 段	<19>「令和3年度の活動内容」の適否	適切	2人	<p>○膨大な図書館の資料を適切に管理する労力は相当なものであることは容易に想像できる。これなくしては図書館の充実した運営は成り立たない。見えないところでのこうした業務を高く評価したい。</p> <p>○業務として適切と判断した。</p>
			概ね適切	1人	
	成 果	<21>「事業・業務の成果」内容の適否	適切	3人	<p>○計画に対応した成果となっており適切である。</p> <p>○毎日膨大な量の書籍が出版されており、しかも現代は紙だけの資料ではないから収容能力の限界をすぐに超えてしまうのだろう。やむを得ず除籍せざるを得ないのであるが、新たな選定と除籍のバランスをとり貴重な資料が処分されないことを願う。</p> <p>○記入の文言のとおりと判断した。</p>

		<p><22> 「成果指標（活動の成果の量や実績）の設定の適否</p>	概ね適切	2人	<p>○全国的に用いられている指標であると思われるため、適切である。重要性が伝わりにくい指標かもしれないが、除籍数を取り上げてもよいかもしれない。</p> <p>○蔵書回転率や人口当たり資料貸し出し数の2つの指標は適切ななので、ぜひ全国平均値に近づけ、上回るくらいであってほしい。</p>
			やや不適切	1人	<p>○「蔵書回転率」や「人口1人当たりの資料貸出数」が県や全国の平均を下回っているのは残念なことである。これは小山市民があまり本を読まないということであろうか。図書館だけのデータでは軽々に断定できないが全国的な傾向として「本」との距離が広がっているのではないか。</p>
3. Check -評価-		<p><33> 「総合評価（事業全体の改善の余地）」の内容の適否</p>	適切	2人	<p>○問題点を概ね指摘されており、内容は妥当と考えられる。</p> <p>○改善の余地があると評価されたとおり、サービス指標を向上させるよう改善を図られたい。</p>
			概ね適切	1人	<p>○利用率の現状に対する図書館の認識や対応方針は評価できる。利用者のニーズをさらに的確に把握し利用者の増加、利用率の向上に向けた努力をお願いしたい。</p>
4. Action -改善-		<p><34> 「事業の課題、事業の改善点、今後の進め方」の内容の適否</p>	適切	3人	<p>○問題点を概ね指摘されており、内容は妥当と考えられる。</p> <p>○本がずいぶん高価になった。それに見合った予算が確保されなければならないだろう。これは図書館職員の努力以前の問題である。小山市が文化を重んじる自治体であるかどうかの指標でもある。</p> <p>○改善の視点、方針内容、ともに適と判断した。</p>

総合意見等

○他の自治体と比較して本市は当該予算が極端に少ないため、まずは予算の拡充が必要である。また、利用者の利便性を高める方策として、比較的低予算で実施可能と思われる、駅前など利便性の高いところに出張所やカウンターを設けることや、SNS などを用いた市民への情報発信を行うことが考えられる。

○かつて岩波文庫は★1つが50円という時代があった。日本がまだ貧しい時代ではあったかもしれないが、本の中には若者の心をつかむ何かがあった。本を通して多くのことを学び、本があったから何とか生きてこられた者も少なくないはずだ。図書館は単に本を保管し貸し出すだけの施設ではない。本を通して人の生き方に深く関わる場所だ。そういう意味からもこれまでの関係者の努力に敬意を表したい。今、各地に個性的な図書館が作られているそうだが、地道で堅実な図書館であってほしい。そして居心地の良い図書館であってほしい。そのためにも予算の確保や専門職員の採用、育成に意を用いていただきたい。また今回「図書館要覧」で初めて「図書館の自由に関する宣言」を知った。こうした理想が堅持された図書館であることを願う。

○インターネットの普及で簡単に情報検索のできる時代にはなったが、やはり、図書館の果たす役割は大きく、いつまでも充実して欲しい施設である。図書館要覧の47ページでサービス指標が全国平均・県平均・本市と比較できるので令和3年度の本市の現状がよく分かった。サービス指標として、人口に対する登録率、登録者一人当たりの資料貸出数、登録者一人当たりの利用回数、人口一人当たりの資料貸出数・受入冊数・蔵書冊数・資料購入費等が記載されている。(令和4年4月1日現在人口166,406人)どの項目も全国平均値・県平均値に及んでいない。本市は県内第二の人口都市でもあるので、予算を含めレベルアップを図りたいと思いました。